



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S

2015年10月

札幌クラブ

THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
T.064-0811
011(561)5217

EMC/E YES (Y'Extension Support)

— 主 題 —

国際会長	「信念のあるミッション」
アジア会長	「愛を持って奉仕しよう」
東日本区理事	「原点に立って、未来へステップ」
北海道部部长	「地元愛」
札幌クラブ会長	「YMCA と共に」

Wichian Boonmaporjorn(タイ)
Edward K. Ong (シンガポール)
渡辺 隆 (甲府)
伏木 康 (札幌)
宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員	
会 長	宮崎 善昭
副会長	八田 信之
書 記	中田 千鶴
会 計	秋葉 聡志
直前会長	伏木 康

今月の聖句

涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い 喜びの歌をうたいながら帰ってくる。
詩編 126 編 5～6 節



平和を守るために戦う

札幌クラブ担当主事 佐藤雅一



8月8-9日 北大を会場に開発教育全国研究集会が開催されました。開発教育は開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。

「開発教育」は、アジアワークの旅と重なり参加は出来ませんでしたが、永年一緒に活動してきた仲間が中心となって進めていたので、準備だけでも手伝えればと思い実行委員として参加し、分科会の企画を担当しました。

分科会のキーワードは、「戦後70周年・平和教育」。具体的なテーマ設定、講師の選定、内容の決定に向けて何度も話し合いを重ねる中で決まったテーマは「戦う平和教育」でした。戦後70年、日本は「平和ぼけ」などと言われることもありましたが、平和は誰かが与えてくれる物、自然とそこにある物ではなく、むしろ非暴力に徹しながらも時の政府・社会と戦い、勝ち取っていく物だと気づかされ、安保関連法案可決に向けた政府の動きが強まる中、市民が自分たちの平和を守る戦いに備える分科会を作ることになりました。

これまでの全国研究集会では、平和教育に関わるテーマだとあまり参加者が集まらないですが、今回は申し込み段階から多くの反響が有り、当日は熱い議論が行われたそうです。

これまでの全国研究集会では、平和教育に関わるテーマだとあまり参加者が集まらないですが、今回は申し込み段階から多くの反響が有り、当日は熱い議論が行われたそうです。

残念ながら9月19日、国民の意見を無視した形で法案は可決されてしまいました。しかしこれで終わりではなく、むしろこれからが本当の戦いです。アメリカのキング牧師、インドのガンジー首相も度重なる苦難を乗り越え平和と平等を勝ち取っています。

「安法制」に反対する北海道宗教者連絡会では毎月19日に座り込みを行うそうです。全国のNGO関係者で作る「非戦ネット」も廃案まで活動を続けていきます。組織として意見を表明するのはなかなか難しい問題もあります。だからこそ一個人として声を上げることが重要なのだと思います。今回デモの中心にいたのは、肩書きの持たない若者と子供を抱えたお母さんでした。

YMCAもワイズメンズクラブもいろいろな意見の人がいますので、組織として一つの意見を表明するのは難しいかもしれませんが、多様な意見があるからこそ良いアイデアが生まれ、新しい運動を作ることが出来るのではないのでしょうか。まずは一人一人が声を上げていくことが大事ではないのでしょうか。

2015年9月例会

在籍会員 10名

例会出席 8名

メネット 2名

メーキアアップ 1名

出席報告

ゲスト 1名

ビジター 0名

出席者合計 10名

出席率 80%

札幌ワイズメンズクラブ

2015年10月例会

日時 2015年10月20日(火) 18:30~20:30

会場 クラッセホテル札幌 2F会議室
札幌市中央区南1条西7丁目1-2

☎ 011-242-2145

会費 1,200円

プログラム

司会 秋葉 聡志

① 開会点鐘 札幌クラブ会長 宮崎 善昭

② ワイズソング・ワイズの信条 全 員

③ 聖句

④ 会長挨拶 会長 宮崎善昭

⑤ 誕生日: 10月17日 柴田 伸俊

結婚記念日 なし

⑥ 卓話「黒豆の秘密」

新農業研究所主任研究員

農学博士 張 聖珍氏



⑦ 諸報告

⑧ YMCA報告 担当主事 佐藤 雅一

⑨ みんなで歌おう

朝鮮民謡 アリラン



閉会点鐘

会長 宮崎 善昭

何故この聖句を? 秋葉 聡志

寄せ書きを頼まれると、最近はその人にふさわしい聖句を書くことが多くなりました。特に卒業し、これから社会に出る学生・リーダー諸君には、この聖句を書いています。「苦勞のない人生に真の喜びはない。雄々しく進め。」との言葉を添えて…。自分にも言い聞かせる聖句です。

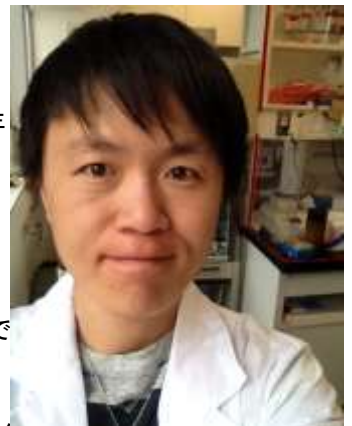
巨大鹿が伏木部長公式訪問をお出迎え!



9月21日、伏木部長は十勝クラブを公式訪問しました。ところがなんと180キロの巨大ひぐまが歓迎に現れました。写真は巨大鹿と十勝クラブ直前会長池田ワイズです。池田ワイズが撃ち殺したわけではありません。昨年札幌クラブが訪問した時は大鹿が現れ、肉をお土産に頂きました。さて来年は何肉を頂けるでしょう?

10月例会卓話者紹介

農学博士 張 聖珍氏
新農業研究所主任研究員



私は張聖珍です。1982年韓国の忠清北道清州(チョンジュ)で生まれました。

清州で大学まで卒業をして忠北(チュンブク)大学・農家大学院で修士を取得しました。修士学位取得まで農業を関連して勉強をしました。

専攻は豆を中心に育種と分子生物学であり2010年日本、北海道大学農学院に留学を来て豆について遺伝学に対して専門的に勉強して2015年9月博士学位を取得しました。

日本に留学に来て日本語を習って日本語が未熟です。日本での生活はもっと広い世界を経験するようになったいい機会になっており、もっとたくさんの人たちと交流し、よい多くの経験を得たいと思います。

母国ではなく他国での生活なので慣れない部分がたくさんあるけど、少しずつ適応されていると思います。

11月例会卓話は「劇団四季」!

「劇団四季」が札幌クラブにやってきます。といっても例会でCATSを上演してくれるわけではありません。劇団四季の営業部長渡部史剛氏と俳優さんがお見えになります。俳優さんが誰になるかは出演スケジュールが流動的なのでまだ決めていません。渡部部長は「四季」が青少年のために全国で展開している無料演劇活動「こころの劇場」について話してくれるはず。俳優さんの話が「私は何故演劇を志したか」になるか「CATS上演の難しさ」になるかはまだ分かりませんが、めったに聞けない生の興味ある話になることは確かです。ワイズ会員でなくとも演劇ファンの友人を誘われて札幌クラブ11月例会へどうぞ。



哀悼 南部悟君

札幌ワイズメンズクラブの大先輩南部悟君が10月3日逝去されました。



南部悟君は1953年北大農学部を卒業、帯広畜産大学、北海道大学で教鞭をとられ、農業機械の泰斗として、日本のみならず、イラン、インドネシア等の農業近代化も指導、推進されました。1977年帯広ワイズメンズクラブチャーターメンバー。後札幌クラブへ転入会。会長、部長などを歴任されました。長年のご奉仕、ご指導に感謝し、謹んでご冥福をお祈り致します。

芋煮とクラシックギターの9月例会



札幌クラブ9月例会は芋煮例会でした。部会、60周年記念祝会を終わりとほっと一息。卓話、会務報告はなしで、ご苦労さん会と親睦を深めることに集中しました。芋煮と各家庭自慢料理とおしゃべりとギターの楽しい会でした。



写真中央：女性会員、メネットは開会数時間前から川上邸に集合、準備に大忙しでした。仙台青葉城清水風の芋煮の他各家庭自慢の料理、惣菜がテーブルの上を埋め尽くしました。札幌北クラブの義村会員も応援に駆け付けてくれました。⇒



左から、中田、宮崎、川上、柴田、義村

写真上：川上会員と宮崎会長の啓明中学・旭ヶ丘高校の同窓生の札幌市西区区長藤垣秀雄さんが駆けつけクラシックギターを演奏し会を盛り上げてくれました。藤垣さんはギターが40年。エリザベス朝の吟遊詩人の時代の曲から、バロック、古典派、ロマン派、現曲と名曲を独自の解説を添えて熱演してくれました。この日多くの会員は家に帰ったのは12時過ぎでした。

YMCAチャリティーバザー

10月初めから低気圧が北海道を覆い、強風が吹き荒れていましたが、バザー当日10月4日は一転晴れ上がり抜けるような秋空で、客足も軽く大盛況でした。

前日の設営は宮崎会長夫妻と中田夫妻、佐藤担当主事が頑張りました。バザー当日は朝8時から柴田夫妻、中田夫妻、宮崎会長夫妻、秋葉総主事夫妻が勢揃い。ご飯を炊き開店の準備を整えました。(カレーは各家庭で自慢の味のカレーを前夜自宅で作ってきます。)

札幌クラブのワイズ食堂には定番のカレーとコーヒーの他に様々な新アイテムが並びました。昨年まで大人気だった「胡瓜の浅漬け」は衛生上問題ありとのことで、残念ながら出品中止。柴田会員夫妻が研究を重ねて新商品を開発しました。▼イタリア、シチリー島から輸入した「レッドオレンジのジュース」、▼ホテル、レストラン用の特製「トマトジュース」、▼「炭焼き風フライビスケット」の3点です。ジュースには砕き氷に入れたり、ビスケットはコーヒーとセットにしたりと工夫して好評でした。札幌クラブの新名物となりそうな予感がします。今年からユースが「バザーボランティア」として「カレーは如何ですか!」と声を張り上げて売り上げに貢献してくれました。お蔭でカレーライスが例年通り完売しました。

札幌クラブの売り上げは52,900円でした。近來の記録だと思います。皆さんご苦労様でした。



写真上 前列：左から秋葉、柴田、秋葉メネット、柴田メネット、中田千鶴、中田靖泰。 後列、左から、宮崎善昭会長、宮崎メネット



写真説明：

上左 子供が群がる札幌北クラブおにぎり店。森本さんと藤田さんが見えます。
上右 札幌クラブ店舞台裏。左から、柴田メネ、宮崎会長、後姿秋葉メネ、宮崎メネ、中田千鶴。お客は北クラブの森さん。
左端 「カレーは如何ですか」と叫んでいるバザーボランティアのユース。
後の2枚は説明不要。見れば分かります。



① 国際協力募金

北海道YMCAが毎年国際協力募金を続けている理由は、北海道YMCAミッションステートメントにある「私たちは、アジア社会の一員として世界の平和を願い、共に喜びや苦しみを分かち合える地球社会の実現に力を注ぎます。」の具体的な活動として行っています。

困難な状況の中で暮らす人々に支援の手を差し伸べることはYMCAの使命であると同時にテロや紛争を防ぐ大きな効果があると言われています。

前JICA理事長の緒方貞子さんは、「人間の安全保障」という考え方の中で、平和を築いていくためには、誰もが最低限の生活環境と教育・医療・福祉のサービスを受けられる事が必要であると述べています。

世界各地のYMCAが行っている多くの活動が人々の生活を支援し、自立して生きていけるように導くためのもので、それは平和を築いていく活動につながっていきます。

みなさんからお預かりした国際協力募金は、世界各地で行われている様々な活動を支える大切な資金となっています。

又今年度も昨年に引き続き国際協力募金の一部を「東日本大震災被災者支援活動」のために使わせていただきます。

いずれかの方法で募金にご協力下さい。

- A) 募金箱・募金袋に入れて、
・YMCAの受付にご持参下さい。
B) 郵便振替にてご送金下さい。
・送金先 ゆうちょ銀行

口座番号：02710-2-16297

加入者名：北海道YMCA

*通信欄に「国際協力募金」とお書き下さい。

国際協力募金は税制金控除の対象になります

② YMCA・YWCA世界合同祈禱週

今年も11月8日～14日、世界のYMCA・YWCAが心を合わせて祈る合同祈禱週に定められています。テーマは「Let there be Hope -希望あれ-」です。

この祈禱週は、世界各地のYMCA・YWCAの多くの会員とその仲間たちにとって、これまでいつも特別な意味を持ってきました。

それは、共に祈り合うことが私たちの結び付きを深め、主の下ではすべての創造物が平等であることを知り、主のわざに励む使命感を強めてくれるからです。又自分たちの活動を検証し、地の塩としてその生き方と働きを新たにするための1週間でもあります。

札幌地区特別集会を下記の通り行います。お誘い合わせの上、多数ご参加ください。

◆札幌地区特別集会

日時 11月13日(金) 18:30～

場所 Y's カフェ 札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター1階



9月19日、北海道YMCAで札幌YMCA英語・コミュニケーション専門学校「国際活動報告会」が開かれました。ワイズ北海道部が推薦し「AYC(アジア地域ユース・コンボケーション)」に参加した専門学校1年生の船越谷充昭君の報告がありました。

AYCは7月31日～8月2日京都で開催されたワイズメンズクラブ国際協会アジア地域大会に先立って多くのアジアの青年たちを集めて行われました。船越谷君にとって最初の国際交流・異文化体験でした。初めてアジアの同年輩の青年たちと出会い、彼らがヨーカイ(妖怪)に興味を持っていたり、「日本人はまだ刀を持ち歩いているのか？」と聞かれて驚いたことなどをういいういしく語っていました。結局、言語、文化、習慣などの違いを超えて語り合い、友人になれるのだ、そのためには相手の国を知り、自分の国日本も知らなければならない、そのためには英語をもっと上手にならなければならない、というのが結論のようでした。

20年目を迎えた「ベトナムボランティアワークの旅」の旅には専門学校2年生の福沢真菜さんと石垣翔一郎君が参加しました。ホーチンミン市(旧サイゴン市)の西方のベンチ



ェ州で小学校の建設に携わりながら現地の人々と交流もし、ボランティアの意味を噛みしめてきたようです。

発展めざましいベトナムだが、まだ取り残されている人々も多く、戦争の傷跡もまだ残っており、YMCAの為すべきことはあるとの報告でした。特に、ベトナム戦争の時に抵抗のために掘ったクチ・トンネルが250キロ!あると聞いてびっくりしました。

カナダの語学研修の報告も興味深いものでした。

結局、3つの報告に共通していたのは、幸せとは何か、ボランティアとは何か、の模索、何にでも興味を持ち、はっきりものを言う、相手が何を求めているかを知る。そのためにはもっと英語を上手にならなければ、でした。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。